

白岡市の公共交通を取り巻く状況（第1回会議資料4、6）

1 高齢化率の推移について

平成22年に当市の高齢化率は、20パーセントを超えた。

平成14年度では、約13パーセントであったが、平成24年度には約21パーセントになり、この10年間で約8パーセント上昇した。

2 交通特性について

(1) 路線バス

限られた地域にしか路線が通っておらず、将来的に事業者の採算性の悪化に伴う路線の廃止の可能性がある。

(2) 市バス

以前、町が事業主体となり町内循環バスを運行していたが、運行経費の負担や利用状況などの理由により廃止した。

3 基礎調査（アンケート調査）の結果について

(1) 日常生活における移動について約3割の方が「不便を感じている」と回答し、80歳以上の方が「不便を感じている」との回答割合が高い傾向にある。

(2) 移動手段が限られる高齢者の方は、買い物・通院に「不便を感じている」回答割合が高い。

導入を検討するための視点（論点）

- ・ どのような人を対象とするのか？（本日第2回会議事項）
- ・ どのような運行形態で展開するのか？（第3回会議）
- ・ どのような利用負担とするのか？（第4回会議以降）

● 対象者の例示

- (1) 住民全体を対象として公共交通網を整備する。
メリット 乗合バスの路線を整備することで公共交通空白地域を解消できる。
デメリット 採算性が見込めないため、大規模な財政負担が必要となる。
- (2) 交通不便地域（遠隔地）の方を対象とする。
メリット 対象地域が限定されるので、一定の財政負担でサービスが提供できる。
デメリット 対象にならない地域との格差が生じ、不公平感を招く。
- (3) 自ら自動車を運転できないなど交通手段を持たない方を対象とする。
メリット デマンド交通を導入すれば、ニーズに応じたきめ細かいサービスが提供できる。
デメリット 市内全域のニーズに応えることになると、財政負担が大きくなる可能性がある。
- (4) 年齢等により対象者を限定する。
メリット 対象者の一定の線引きが可能となり、財政負担が軽減される。
デマンド交通やタクシー券などニーズに合った複合的なサービスを提供できる。
デメリット 対象範囲の設定が難しい。
対象から外れた方の不満が残る。
- (5) 重度の障がいをお持ちの方など福祉的な援助が必要な方に限定する。
メリット 財政負担は最も少ないと思われる。
デメリット サービスの範囲が限られる。